

「沼津市戸田造船郷土資料博物館移転整備基本構想(案)」に関する意見募集の結果について

「沼津市戸田造船郷土資料博物館移転整備基本構想(案)」についてパブリックコメントを実施しましたところ、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。いただきましたご意見の概要と市の考え方を示します。

- 1 実施時期:令和6年7月23日(火)～令和6年8月22日(木)
- 2 閲覧場所:沼津市ホームページ、沼津市戸田造船郷土資料博物館、沼津市役所(文化振興課、生活安心課)、市内各市民窓口事務所
市立図書館(本館、戸田図書館)
- 3 提出者数:13名
- 4 意見数:9件
- 5 提出された意見の概要及び市の考え方

No,	意見の概要	市の考え方・対応	修正の有無
1	眺望のよい旧国民宿舎跡地に建てるのが良いと思う。津波避難場所の機能や、カフェなどを併設すれば、観光客だけでなく地元の人にも利用しやすいと思う。 (5名)	移転場所については、津波浸水想定区域外であることや、来館者の利便性を考慮して検討しているところです。 複合的な施設にするかどうかも含め、具体的な機能は、今後策定する基本計画の中で検討してまいります。	無
2	「助けあい」「話しあい」の精神から始まったヘダ号建造の歴史は、戸田地区住民の誇りであり、戸田の漁師の心意気でもある。この精神は戸田の漁師踊・漁師唄の継承にも寄与していると思う。優秀な技術者を生み、現代につながる造船技術の礎となった造船の歩みを現代風に見られる展示を望む。	4 基本構想(1)基本理念の内容にありますように、新しい博物館ではヘダ号を「建造した史実やそれに携わった人々の活躍」を「郷土の誇りとして顕彰」してまいります。 また(2)基本方針③に挙げましたように、漁師踊・漁師唄などの戸田地区に残る資料を調査研究し、正確な情報に基づいた展示活動を行います。	無

No,	意見の概要	市の考え方・対応	修正の有無
3	<p>日本の近代造船の礎となったヘダ号を建造した貴重な歴史をもっと日本に情報発信し、後世に伝えていくことは重要な郷土の誇りと繁栄にもつながると思う。</p>	<p>戸田地区に残された歴史資料の保存と継承は、55年前に建設された戸田村立造船郷土資料博物館から受け継いでいるものです。市内外への情報発信は、新しい博物館にとって重要な要素と考えております。</p>	無
4	<p>子供達が郷土愛を持ち、もっと沼津を誇りに思えるよう、学校教育の中で学べる機会を設けてほしい。 遠足や社会見学で楽しく学べる施設になったら、有意義な税金の使い方になると思う。</p>	<p>基本方針②において、学校教育との連携を掲げております。触れるハンズオン展示を取り入れたり、体験プログラムを充実させたりすることで、楽しく学べる博物館となるよう、基本計画の中で検討してまいります。</p>	無
5	<p>ロシアゆかりの地、下田、富士、戸田を一日で周れるように戸田から伊豆長岡に抜けるトンネルができると良い。楽しくて長くとどまる施設であることが望ましい。</p>	<p>基本方針③において、関連市町、関係機関との情報共有、連携、発信を掲げています。トンネルの建設は難しいかと思いますが、下田市や富士市と協力し、相互に行き来できるような連携を図っていきたいと考えます。</p>	無
6	<p>(1)基本理念について、「…歴史を継承する博物館」とあるが、「情報発信」という文言をこの大文字の部分にも入れ、能動的な博物館であることを示してほしい。 (2)基本方針②について、もっと小中学生に利用してもらうために、沼津高専や沼津工業高校、日本大学などの学生のボランティア活動活動を支援する形が考えられる。 ヘダ号の模型の3D データを取得すれば、展示に役立つだけでなく、小さくてもかなり精密なおもちゃなどを作って土産物にすることもできる。</p>	<p>(1)基本理念の内容には掲げていますが、情報発信は重要な要素であるため、「…歴史を継承し、<u>発信する博物館</u>」と修正します。 学校教育との連携や、小中学生が楽しめる展示の具体的な方法については、今後基本計画の中で検討してまいります。 3D データや視聴覚資料などを活用した展示や、ミュージアムショップの併設についても、今後検討してまいります。</p>	有

No,	意見の概要	市の考え方・対応	修正の有無
7	<ul style="list-style-type: none"> ・『七船匠とその子孫達の功績を大々的に打ち出した展示内容にする』→現状の展示はヘダ号の建造が我が国の歴史上いかに重大であるかわかりにくい。 ・『杉村宗作氏製作の大型模型について 3次元データを取得する』→ヘダ号の船体構造の理解に役立ち、プロジェクションマッピングを用いた展示や宣伝への応用も可能となる。 ・『「伊豆国戸田浦之図」を元にした展示を作成する』→近年発見され、当時の戸田村の様子が描かれた貴重な資料である。最新の研究結果を取り込むことで、今後の調査研究へ取りくむ意欲も増すと思う。 ・『展示物のロシア語表記の充実』→日露友好を謳うにはロシア語の表記が少なすぎる。 ・『現状より交通の便が良い場所に移転する』→現状非常にアクセスが悪く、自動車等でなければたどり着くのが困難。 ・『建物の1階に主要な展示物を設置する』→現状階段を上らなければ展示はおろか受付にさえたどり着けない。 	<p>基本理念の内容にありますように、ヘダ号を「建造した史実やそれに携わった人々の活躍」について、郷土の誇りとして顕彰する展示としたいと考えています。</p> <p>3次元データや新しい資料を取り入れた展示については、基本計画の中で検討してまいります。</p> <p>ロシア語を含む外国語表記については、多文化共生の観点から必須の要素と考えております。</p> <p>移転先の検討においては、交通アクセスも重要な課題として考慮いたします。</p> <p>現状の建物は建設当時のまま、大きな改修もなされず利用者にご不便をおかけしていることは重々承知しております。建物の設計については、移転先が決定してからとなりますが、平屋、もしくは2階建てとしても展示室は1階に置くなど、新しい博物館においては、外国語表記と同様、改めて記述するまでもなく、バリアフリー、ユニバーサルデザイン化を取り入れた建物といたします。</p>	無
8	<p>基本理念は、現状の継承に重点が置かれ、より魅力的な博物館に作り直すとの意欲が乏しい。現在の展示品のほとんどは、50年前の開館当時のままで、造船世話掛(船大工)の資料が少ない。ヘダ号建造の最大の功績である7人の船大工の活躍こそが戸田の「宝」であり、これらを如何に活かすかが最重要課題である。</p>	<p>基本理念として「歴史を継承する」と掲げましたが、デジタル技術を活用した展示手法や、資料紹介の仕方を工夫することにより、より分かりやすく、多くの方々に興味を持っていただけるような博物館にしたいと考えております。それらの具体的な方法については、お寄せいただいたご提案も参考にしながら、これから策定する基本計画の中で検討してまいります。</p>	無

	<p>上記に沿った具体的な方法として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東海大学から借用している杉村模型を寄贈してもらう。 ・ 杉村模型を 3 次元画像として取り込み、宣伝や展示に使う。 ・ 滑り台を利用した画期的なヘダ号の進水式の様子を、アニメ化もしくは模型展示する。 ・ 牛ヶ原造船現場をジオラマ模型で再現。 ・ 「伊豆国戸田浦之図」をもとに当時の戸田村のジオラマを作成。 <p>外部の研究者の研究成果を活用。 学芸員が館長を兼務するような貧弱な組織体制の見直し。 漁撈関係などの郷土資料を除き、日本の西洋式造船発祥の地に相応しい博物館とする。 駿河湾深海生物館をどうするかについて触れられていない。 造船業界や海運業界などからの協賛を得る。 幕末の激動期において、戸田で洋式帆船ヘダ号が国際協力のもとに建造されたという稀有な出来事を広く国内に知らせ、沼津市民としてそれを誇れるものにしていただきたい。</p>	<p>今回の基本構想につきましては、あくまで新しい戸田造船郷土資料博物館のコンセプトについて取りまとめたもので、深海生物館のあり方については含まれておりませんが、深海生物館は造船郷土資料博物館とともに移転する方向で、事業を進めていく方針です。</p>	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『七船匠とその子孫達の功績を大々的に打ち出した展示内容にする』ことにより世界でも評価されている日本の造船技術と造船場の礎の聖地巡礼として誘客の見込みは大きくあると思う。 ・ 体験型の博物館とし、修学旅行の誘致をする。 ・ 外部から新発見の提供を受け、飽きさせない場作りをする。 	<p>基本理念の内容にありますとおり、ヘダ号の建造に「携わった人々の活躍」も「郷土の誇りとして顕彰する」博物館とする考えです。また、基本方針の中で「体験型プログラムの充実」、情報の「共有・連携し発信」することとし、さらなる魅力づくりに努めてまいります。</p>	無